

令和6年度 宮崎県立延岡商業高等学校 学校評価書

教育目標
宮崎県教育基本方針および宮崎県人権教育方針に基づき、個性の伸長に努め、知・徳・体の調和のとれた、主体性・先見性・創造性・実践力のある「未来を切り拓く心豊かでたくましい宮崎のひとりづくり」を目指し、郷土を愛し、広い視野を持ち、地域や社会の発展に主体的に参画するとともに夢や希望を抱き生涯にわたって自己実現を図れる、質実剛健にして堅忍持久・勤労愛好の精神に富む人材を育成する。

経営方針 校訓 「質実剛健 堅忍持久 勤労愛好」 スローガン ～「栄光は君に 挑戦せよ! 延商生」～
 ○めざす学校像 「生徒一人ひとりを鍛え、褒めて、育てる学校」
 ○めざす教師像 「高い専門性と指導力を備え、使命感と情熱を持って生徒を育て、人間性豊かな教師」
 ○めざす生徒像 「人間力と実践力を身に付けた、心豊かでたくましい生徒」
 「地域社会や全ての産業現場でビジネスの視点を持って活躍できる資質を備えた生徒」

重点目標
「集団を大切に」「生徒一人ひとりを鍛える」「生徒のもつ可能性を発見し、伸張させる」教育活動により、「生きる力」を育むことを基本として

(1) 「頭」を鍛え、褒めて、伸ばす(学力の向上と進路の実現)
 ① 生徒の理解度を高める教科指導を推進し、基礎学力の定着を図る。
 ② 経営・経済の不易と流行を学ばせる専門教育の充実に努め、学んだ成果を実感できる資格取得を推進し、達成感・成就感を味わわせる。
 ③ キャリア教育・職業教育を推進し、夢や希望を育て、進路実現に向けた組織的な支援体制により、実現する力を身に付けさせ、生徒一人ひとりの自己実現を図る。
 ④ ICT教育の推進を図る。
 ⑤ 教職員が授業を中心とした質の高い教育活動に専念できる環境づくりに努め、「教育の質の向上」と「生徒の教育の充実」を図る。
 ⑥ 教育環境を整える施設、設備、備品等の充実と就学支援に関する制度の周知、積極的な利用促進を図る。

(2) 「心」を鍛え、褒めて、育てる(規範意識の確立と心の教育の充実)
 ① 「時を守り、礼を正し、場を清める」実践指導と道徳教育の充実により、基本的生活態度の確立を図り、生命を大切に心や他人を思いやる心、規範意識等の道徳性を身に付けさせる。
 ② 学校行事やホームルーム活動等を通して、集団の中で輝く個性の伸長に努め、自主性・自立心、人間関係構築力を育成し、豊かな人間関係の醸成に努める。
 ③ 読書や体験活動、を通して豊かな心の育成に努める。
 ④ 「教育相談体制」の充実「特別支援教育体制」の充実「通級による指導」体制の構築に努める。そのために必要な関係機関との連携を推進する。

(3) 「体」を鍛え、褒めて、伸ばす(健康・安全教育の充実と部活動の活性化)
 ① 生徒の個々の状況に合わせた心身の健康教育や安全管理の充実を図る。
 ② 危機管理、防災対策に組織的に取り組み、施設設備を含めて、学校の安全管理の徹底を図るとともに、生徒の危機回避能力を育成する。
 ③ 部活動や学校行事等を通して、自己の鍛錬と向上心を育み、スクールリーダーを育成する。
 ④ 継続して就業できる社会人の育成を図る。

(4) 『延商の教育』を達成するための制度の充実『ワンチーム延商』の確立
 ① 学校組織マネジメントの(PDCA)の活用
 ・継続的な検証改善サイクルの実践。
 ② 教職員の協働性(同僚性)参画意識の確立『共通理解と組織的取組』
 ・組織力と参画意識を高める報告・連絡・相談及び校務分掌間の事前の調整・理解の推進。
 ① 家庭、地域との連携・協働の推進
 ・家庭、地域社会への積極的な情報発信と地域と連携・協働した社会貢献活動の推進。

重点目標	評価項目	具体的方策及び評価指標	自己評価	成果及び改善策	学校関係者評価	評価・具体的意見
「頭」を鍛え、褒めて、伸ばす	【教務部】 学習習慣の確立	・自宅学習の定着。自宅学習のあり方を再構築する。 ・長期休業中における課題一覧表を作成することで、長期休業中の課題を期限内に提出させる。また、課題一覧表を保護者にも示すことで、家庭と学校が連携して生徒の学習指導にあたる体制を作る。	B	・自宅学習課題を教科主導で作成する形で1、2学期間実施してきた。教科間で課題の重複が発生しないよう1週間単位や単元ごとに課題を出す工夫をおこなっている教科もあった。しかし、分量的に不十分であるという課題は残る。3学期もこの形式を継続する。※1学年の取り組み：教科担任からの課題とは別に期間で区切って自宅ノートに取り組みせ、学習意欲の高い生徒の学力保証に繋がっている。	B	・自宅で学習習慣を気付くことは社会人となった時に極めて大切です。
	【教務部】 基礎学力の定着	・黙学の内容の充実を図る。	A	・基礎的な学習内容の確認、定着を図る貴重な取り組みになっている。国語科、数学科、英語科、商業科の協力を得ながら継続させていく。学習意欲の高い生徒のために、発展的な課題を準備するなどの工夫を取り入れる予定。	A	
	【教務部】 授業力向上と授業改善	・研究授業や公開授業などを通して、授業改善を目指す。 ・ICT機器を導入した授業について研究する。 ・授業に関する情報や教材等を共有し、授業力向上に役立てる。	B	・公開授業を2学期に実施。他教科のICT活用例を参観することで、新たなICTの活用方法を見いだす機会とした。授業内における活用タイミングを示すなど、短時間で参加できる工夫をおこなうことで、参観率を高めた。 ・11月は期末考査前ということもあり、実施が難しい状況が見えた。実施時期を10月中2週間に設定することを検討する。	B	・ICT活用にさらに取り組んでいただきたい。
	【生徒指導部】 服装容儀指導の徹底	・常時指導の徹底。生徒指導部を中心に見逃さない指導を心がける。指導票管理の一元化や定期的な朝の正門指導を実施する。	B	・生徒の意見を取り入れた校則見直しの流れの中で、教員側も変化を求められている。常時指導が基本であることを再確認するとともに、情報共有を徹底し、統一した指導体制を確立していきたい。	B	・人として最も大切なことは「善悪を判断する能力」です。教育者としては大変ですが粘り強くご指導をお願いします。 ・校則の基本的な妥当性を生徒が認識しているのか気になります。
	【生徒指導部】 生活態度の確立	・問題行動を未然に防ぐために、予防的生徒指導を充実させる。 ・携帯、スマホの校内持ち込みルールやマナーの徹底。情報モラル教育を推進し、集会等で生徒及び保護者の意識喚起を促す。 ・靴箱、駐輪場の指導を学年と協力して取り組む。施錠率100%を目指す。	C	・問題行動においては、無断アルバイト、SNSへの不適切な投稿、道路交通法違反があった。生徒の自己肯定感を高める指導を心がけ、規範意識の醸成へとつなげたい。 ・自転車関係においては施錠率とヘルメット着用率向上を図りたい。	C	・アルバイトの件においては、無断でアルバイトをする必要性があること自体(根本)に目を向けていない気がします。 ・家庭と連携して指導ができるといいと思います。
	【生徒指導部】 マナー教育の徹底	・全職員の共通理解の元、礼法指導を徹底する。 ・人前を意識した行動ができるマナー指導を生徒指導部中心に全職員で取り組む。 ・交通マナー苦情ゼロを目標に掲げ、問題が発生した場合には即全体指導を行う。 ・登下校経路確認の徹底。定期的に立ち番指導を実施する。自家用車による送迎ルール、マナーの徹底。	B	・礼法指導や、交通マナーについては、部門委員会活動で取り組んできたが、生徒の主体的な取り組みにより行動が変容するように粘り強く指導していく必要がある。 ・送迎については正門付近が混雑する時もあるが、特に大きな問題は起きていない。公共施設の利用マナー向上については、人前を意識した行動ができるマナー指導を強化していきたい。	B	・学校に訪問した際は、必ずどの生徒も挨拶して、とても気持ちがいいです。
【生徒指導部】 スクールリーダーの育成	・キャプテン集会、部活動生集会を開催し部活動を通してリーダーの育成に努める。 ・部門委員会の活性化(原則月1回)。具体的活動を示しながら、生徒が自ら考え、主体的に行動できるように促す。	B	・生徒による部門委員会を月一回実施してきているが、今後、部活動を含めた活性化を目指し、時間の確保と質の向上を図るための取り組みを進め、生徒の主体的な取り組みをサポートするための体制を整えたい。	B		

「心」を鍛え、褒めて、育てる	【進路指導部】 進路指導体制の確立	・全職員で取り組む進路指導体制を整える。 ・各部学年と連携し、生徒希望の進路実現を目指す。 ・小論文指導者養成。(校内・校外研修)	B	・今年度も3年生の面接指導・作文小論文指導を全職員で実施した。(3/10現在) 就職64名【県内市内52名(81.3%) 県外11名(18.7%)】 進学65名【大学21名 短大7名 専門学校27名 看護10名】	A	・本人の希望と先生方の考えを取り入れ進路を決定している様子がうかがえる。 ・進学に対しての取り組みが、良くなされていると思います。
	【進路指導部】 キャリア教育の推進	・職業観や勤労観を育む進路行事を充実させ、地域(宮崎・延岡)に貢献する人材を育成する。 ・生徒育成のビジョンを明確にしたガイダンスや講話を取り入れ段階的指導をおこなう。 ・キャリアパスポートの活用により、学習や生活の振り返り時間を確保して自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育成する。	B	・夏休みにはハローワーク主催のキャリアガイダンスを実施した。受講態度も良く真剣に取り組む姿が見られた。 ・今年、複数の応募前企業見学会に参加する生徒が多かった。 ・九州医療科学大学訪問・体験型職業理解ガイダンスの実施(1年生対象) 午前:大学訪問、午後:体験型ガイダンスという流れでおこなった(2年目)。1日を通して職業観や勤労観を育み・進路を考える日となったが、中学時代にも大学訪問をしているようなので、今後、中学校との差別化や高大連携を深められるものを検討したい。		
	【進路指導部】 進学対策の充実 大学試験・公務員試験等	・担任・教科との連携や集会の開催により、生徒の適性に合った進学促進をおこなう。	B	・第2回進路希望調査(1/8現在)2年生 就職96名 進学85名		
	【進路指導部】 関係機関との連携	・ハローワーク、延岡市、各企業・専門学校とのネットワークを地道に構築する。	A			
	【ICT広報部】 ICT教育の推進	・ICT機器とPC室の整備と管理	A	・校務用PCの設定、PC室の不具合、PC利用に関するトラブルは即座に対応した。また、Wi-Fi環境が圧迫しない工夫や不具合防止、セキュリティ向上のため校務用PC等を使用しない際の電源OFFを推進した。	A	
		・ICTを活用した授業実践の共有	A	・Googleアプリの使用法を中心に全体研修および希望に応じて個別で研修会を実施し、Google for Education 活用ライブラリの活用を推進を図った。	A	
	【保健環境部】 授業力の向上	・棚の使い方や整理の見本を示し整頓させ、学習に集中しやすい環境を作る。 ・生徒によるチェックを行う。 教室や棚の整頓状況8割が良いと思える。	A	・担任、副担任の先生方の協力があり、棚の整理整頓が保たれている。 ・美化委員が、清掃点検の中でチェックを行うことができた。	A	
	【保健環境部】 学習習慣の確立	・保健室利用の目的を周知させる。 欠席、遅刻数、不必要な保健室利用数を減らす。	A	・新入生オリエンテーションで「保健室利用について」の周知を行い、2・3年生には、養護教諭がその都度注意を行った。	A	
	【図書部】 専門教育の推進	・授業における図書館の活用促進を図る。 ・各教科や商業教育に関する専門的な資料を充実させる。	C	・授業や自学自習などの諸活動で利用しやすくするため、他校の取り組みを参考に可動式の机、椅子を整備し、環境を整えたい。	B	
	【図書部】 キャリア教育の推進	・関係分掌や各教科と連携し、進路学習の充実を図る資料等を揃え、活用を促す。 ・昼休みや放課後等、図書館を自学自習の場として開放し、学習に対する自主性を高める。	B	・学期ごとに職員・生徒から希望のあった蔵書を揃えることができた。 ・検定やテスト前に学習する生徒の姿が見られた。		
【渉外厚生部】 PTA研修会への積極的な参加	・各種PTA行事に多くの保護者が参加し、行事は勿論、学校の活性化に寄与する。 又、相互の親睦を図り、研修視察も実施、親として大人としての見聞を広げることに努める。	A	・各種会合には積極的に参加し、又理事会等では毎回全員に近い出席率で、親睦が深まることは勿論、有意義な時間を共有できた。9月の体育大会も盛大に開催され、桜マーケットにおいてPTAの弁当販売は今年も完売した。10月の高P連県大会においては本校で企画した講演は好評に終わり、大会全体も盛会となった。11月の視察研修では日頃見ることのできない3企業を視察することにより、多くを学び知識を得ることができた。	A	A	・桜マーケットに参加させてもらい非常に楽しかった。 ・保護者が積極的に学校に来る環境であるというのはいいものです。
	・高P連九州大会、全国大会、県大会に参加し、他県、他校の取り組みを知り、本校のPTA活動が更に活性化するためにはどうすれば良いかを検証、検討することに努める。	A	・高P連九州大会への参加を始め、県北地区母親委員会、生活指導委員会等の研修の場へ積極的な参加ができたと思える。又、PTA理事と職員間も大変良好な関係と言える。今学期の県北母親研修会と県高P連大会は成功で終えることができた。	A		
【教務部】 学習環境の整備	・定期考査期間や長期休業中における私物の持ち帰りを実施し、整理整頓を徹底させる。	A	・学年が上がるごとに持ち帰り状況が良好となる傾向が見られた。教材の持ち帰りを徹底する事で、教室環境をリセットし快適な学習空間の維持に努めていきたい。 ・テスト直前に放課後学習をする生徒もいるが、雑談や遊んでいる生徒も多く、テスト直前の学習に取り組む雰囲気作りやテスト期間中の教室の利用ルールも必要である。	A	A	
	・チャイム前の着席を呼び掛けることでベル着、ベル開始を励行する。	B	・学習委員会を中心に生徒主導で取り組むことができた。今後も継続して取り組んでいく。授業に対する意識が低い生徒を見かけることもあるため、生徒への声かけおよび授業開始時の指導を推進したい。	B		
【進路指導部】 規範意識の確立 心の教育の充実	・各種集会を通して挨拶や言葉遣いの正しい活用の仕方や入退室の仕方などのマナーを全職員で指導する。	B	・現役ではなかなか公務員試験に合格しないが、その後専門学校を経て合格する事例はある。希望者はいるので、しっかり学習する場を提供していきたい。今年度は3年ぶりに現役で「宮崎県警察B」に合格者が出た。	B	B	・自宅で保護者と一緒に求人票を検索できるというのは、保護者も安心だと思います。
【進路指導部】 主体的で積極的な生徒活動の活性化	・進路の情報を的確に発信する。(進路だより等)進路指導室を積極的に利用させる。(LHR、昼休み、放課後等 利用しやすい雰囲気を醸成する)	B	・県北地区担当キャリアコーディネーターと連携して企業求人のお問い合わせや情報交換等ができた。 ・「Handy進路指導室」アプリを活用して求人票をデジタル化した。(2年目)3年生は自宅で保護者と求人票を検索・検討することができるようになり効率が良くなった。 ・進路だよりを活用しての情報発信ができています。			
【保健環境部】 マナー教育の徹底	・施設・用具を正しく、大切に使用し、公共でのマナーを理解する。 ・ごみの散乱、トイレの使用の注意を促す。・無言集合など、集団生活のマナーを身につけさせる。 ・ごみや器物破損を減らす。	B	・ドアが壊れた件があったが、その他については、故意に壊したりなどは見られず落ち着いている。 ・担任や教科担任の先生、清掃担当の先生方の指導もあり、ゴミ等の散乱は見られない。 ・無言集合を呼びかけると、応えてくれている。	B	B	
【保健環境部】 豊かな心の育成	・清掃集会や定期的な強化週間を設定する。 ・清掃取り組みの意識が高まったと思える。	B	・美化委員が清掃点検を1週間にわたり行う活動を2回行った。	B	B	

【図書部】 読書の推進	・朝の 10 分間読書を充実させる（全職員が生徒と一緒に教室で読書を行う）。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書は各学年とも読書に専念できた。学期毎に図書委員による朝読書の見回りを行うことができた。 ・図書委員会では図書日より発行、カウンター当番、蔵書整理などを行うことができた。生徒による企画で2学期は読書週間に図書まつり、12月は本の福袋イベントを実施できた。生徒の創意工夫や自主性を育成していきたい。 ・さまざまな本に触れることができるよう、また探したい本がすぐに見つけられるよう図書室内の蔵書分類を行った。1学期同様、特集コーナーの設置や装飾などを継続してより利用しやすい図書館を目指したい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・読書週間は生涯必要だと思います。更に継続してください。
	・生徒の読書量および図書館利用者を増加させる。 ・読書量調査を継続し、貸出総数 1,400 冊(一人3冊)以上を目指す。	B			
	・明るく立ち寄りやすい図書館の雰囲気を作る。 ・新刊図書案内、特集コーナー等、蔵書の配架を工夫する。	A			
【図書部】 スクールリーダーの育成	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会活動の活性化を図る。 ・カウンター業務・読書量調査に主体的に取り組む。 ・図書だよりの内容を充実させ、読書の啓発と図書館利用促進を図る。 	A			
【図書部】 豊かな心の育成	・生徒の文化的活動の成果物や作品展示を通して、他を認め、自尊心を高め自己肯定感を育てる。	A			
【渉外厚生部】 PTA 新聞を通して、延商の良さや魅力を発信	・PTA 新聞に生徒が活躍している写真や記事を多数掲載するなど、保護者が興味を持つ紙面作りを行う。	A	・昨年度より、1学期版は紙面新聞にて、2・3学期はWEBにて刊行することと決めた。今学期はweb および保護者あて“れんらくアプリ”にて配信した。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・Web に移行したことの周知率評価などはどうだったのか。 →配信メール開封率 89%
【教育相談部】 好ましい人間関係づくり	・共に支え合う仲間づくりの一環として、各学年にLHR 等で構成的グループエンカウンターや SST を学期1回取り入れてもらい、指導案を提供する。	B	・2学期は大きな行事が多く実施時間の確保が難しかったが、3学期は各学年1回の実施した。	B	
【教育相談部】 豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・人権学習を実施し、生徒職員の人権感覚を養う。 ・学校生活のあらゆる場面において、規範意識を持ち、正しい価値基準を持って行動できる生徒を育てる。 ・延岡しろやま支援学校との交流教育の充実を図る。 ・教育相談活動周知のため、生徒職員に毎月カウンセラー便りを発行し、心に関する話題や生徒の学びや気づき等を掲載する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の人権教育研修の一環である宮崎県、延岡地区、日向市それぞれの人権・同和教育研究会に参加した。 ・2学期の人権教育も年間計画どおり各学年で実施できた。特に12/5の延岡しろやま支援学校との交流教育は、生徒の提案で模擬販売実習を行い、商業の学びをもとにした交流ができた。 ・初の試みとしてデートDV 予防講座を実施した。 ・毎月カウンセラー便りを発行し生徒の感想掲載もできた。 	A	
【生徒指導部】 健康・安全教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・交通教室や防災訓練及び情報モラル教室を年度の早い段階で実施。 ・校外外における防災教育の充実と関係機関及び地域住民との連携を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・延岡警察署交通課に依頼し、対面での講演を実施した。DVD 映像を使いながらの説明でわかりやすかった。また、ヘルメット着用にて特化した交通教室を実施した。 ・自転車通学途中の交通事故が数件発生しており、ヘルメット着用啓発と実践的な取り組みを強化し、生徒の行動が変容するような働きかけをしたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルメット着用については学校の動きだけではむずかしいものがあると感じています。
【生徒指導部】 部活動の推進	・部活動加入率 85%以上を目指す。	C	・年度初めの入部率 77.6% (1年生:88.1% 2年生:66.6% 3年生:78.2%) →現在 78.01% (1年生:84.04% 2年生:72.06% 3年生:77.86%)	B	<ul style="list-style-type: none"> ・加入率 85%を目指してください。
【保健環境部】 健康・安全教育の推進	・保健だよりの発行や集会での指導を行う。 感染症や熱中症、けがの予防ができる。	A	・養護教諭のサポートにより、保健委員が交代で毎月発行を続けている。	A	
【保健環境部】 生活態度の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・ケガや病気の防止に努め、授業への遅刻を減らし、出席率を高める。 ・体力の向上を目指し、活力ある学校生活を送る。授業への参加率の向上。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保健委員がクラスへの投げかけを行う機会を設けた。 ・体育行事や、生徒会行事と連携して、活力ある学校生活を送る雰囲気づくりをしている。 	B	
【保健環境部】 主体的な生徒活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・美化委員、保健委員会の活動の活性化。 ・清掃点検、保健便りの発行、感染症予防の呼びかけを行う。 	A	・上記のようにしっかり活動できた。	A	
【渉外厚生部】 安全教育の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・職員・PTA 役員合同の登校指導を行い、生徒の交通規範意識を高める。 	B	・PTA による登校指導を各学期1回ずつ(6月、10月、1月)実施し、延べ44名の参加で実施することができた。大事な行事であるため今後も継続して実施していきたい。	A	
【渉外厚生部】 栄養面でのサポート	・ロードレース大会で、PTA 役員による豚汁会を行い、生徒の心、体を温める。	A	・桜マーケットでのPTAによる弁当販売は150個完売した。ロードレース大会の豚汁の振る舞いについて、今回は材料切りの調理から実施することにより、経費削減に努めた。保護者の積極的な協力も見られた。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ロードレース中でも挨拶する生徒たちもいて気持ち良かった ・ご苦労様です。
【事務部】 学校予算・資産の適正かつ計画的な執行	・各部各教科からの要望をとりまとめ、学校生活が安全かつ円滑に行われるよう適正な執行を行う。	A	・要望をとりまとめ、順次執行している(物品購入、修繕等)。	A	
	・光熱水費や消耗品(文房具やコピー用紙等)など需用費の節減に努め、校舎等の修繕費を捻出する。	A	・物品のなるべく安価な調達、節電の推進等、可能な限り行った。冷暖房の適切な使用に努め、消し忘れ等もなくなるよう、注意喚起も行った。	A	
	・備品等を整理し、有休備品や共有できる備品の情報提供を積極的に行い活用する。	B	・年度内に備品点検を行い、物品の有効活用を図っていく予定である。← 実施後に修正する。	B	
【事務部】 学校施設及び教育・環境に関する安全維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ・安全性を重視して点検を行い、早急に対応し学校施設の環境維持・整備に努める。 ・旅行命令の精選による適正かつ計画的な旅費の執行を行う。(県外出張は2学期までに計画を提出) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・施設設備) 順次、必要性の高いもの、予算措置されたものから修繕・改修を進めた。 ・旅行命令) 現時点では計画的な旅費の支出ができた。 	A	

『延商の教育』を達成するための制度の充実『ワンチーム延商』の確立	【教務部】 保護者との情報共有	・月別行事や考査日程、成績配布などの教務に関する情報を定期的に発信し、保護者への情報提供および情報共有に努める。	A	・概ね実施できた。学校からの情報発信をおこなうことで、家庭と学校が連携して指導をおこなう体制作りに取り組んでいきたい。	A	
	【教務部】 自己管理能力の育成	・手帳を活用し自己管理能力の育成に努める。 ※SHRで手帳を開くことを習慣化	C	・手帳を活用することで、聞く、考える力の育成につなげていきたい。HRの際に開かせる指導。集会の際に持って行く指導を推進していきたい。	C	
	【生徒指導部】 学校行事の活性化	・学校行事の意義を考えさせる機会を増やし、生徒の満足度を高める。	B	・各行事のアンケート結果を踏まえて見直しを重ねていきたい。可能な限り生徒の意見を反映させた行事運営をすることで、生徒の自己肯定感や満足度を高めたい。	B	
	【進路指導部】 職員の協働性の確立	・各種行事を各部・学年と協力する。 ・各担当が計画した行事等に進路指導部全員で取り組む。(共有・共通理解、共汗、共動)	B	・今年度も3年生の面接指導・作文小論文指導を全職員で実施した。(1/8現在)就職60名 進学61名 国公立大学合格者 4名(山口大1名 佐賀大1名 宮崎公立大2名) ・各学年と連携した取り組みを適切な時期におこなうことができた。	B	・商業高校から国立大学合格が4名もいるのは素晴らしいです。
	【ICT広報部】 広報活動の充実	・HP、Instagram、ポスター、パンフレット、新聞などによる広報の充実	A	・Instagramを中心に積極的な情報発信を行ったことで、閲覧数等が伸びた。(1/7時点)学校HP 3,587,314閲覧。Instagram 2,516名フォロー。今後、ICT広報部だけでは情報の偏りもあるため、全職員による情報提供または情報発信を図りたい。 ・9月以降のInstagramの閲覧数が月間160万以上となり、県北の県立学校フォロワー数もNO.1になった。高校生ラジオ(ワイワイテレビ)への出演もし、学校宣伝を行った。 ・学校ポスター、パンフレット、延商新聞NO.1とNO.2を作成できた。 ・学校説明会資料を再編集し、より本校の魅力を発信できるようにした。また、中学校での説明会は各学校から依頼をされる曜日の偏りがあったが、偏りなく回れた。	A	・内容が面白いです。 Good!! ・Instagram毎回楽しみに見せてもらっています。学校の様子が分かってとても良いです。
	【保健環境部】 職員の協働性の確立(ココロ和むネットワークづくり)	・清掃での率先垂範・清掃チェックの意識全職員で取り組んでいるか。	B	・清掃場所それぞれの監督の先生方の行き届いた指導が行えた。	B	
	【保健環境部】 家庭、地域との連携	・家庭への発信の機会を作り、感染症等の予防対策の発信。 ・疾病予防の意識向上が見られるか。	A	・養護教諭のサポートにより、保健委員が交代で毎月発行を続けている。	A	
	【図書部】 職員の協働性の確立	・各種行事を各部・学年と協力する。	A	・ICT広報部のサポートで県の「ひなた電子図書館サービス」を導入できた。 ・本校の蔵書は小説の割合が多いので、各部や学年との連携が進むよう多様な分野の本や資料をそろえていきたい。	A	
	【渉外厚生部】 保護者、地域社会との連携の強化。	・PTA総会出席率80%以上を達成する。	B	・PTA総会出席率86%(委任状含む)で、2次集会6%であった。 ・視察研修内容は非常に濃く、保護者も喜んでいて、敢えて言えば参加人数を増やしたい。	B	・出席率86%はOKだと思います。
	【渉外厚生部】 職員の協働性の確立	・厚生事業を適正に行う。出席率80%を目指し、親和会行事を充実させていく。	B	・今年度は4月段階で年度内実施の各種宴会の会場は抑え実施できた。	B	
	【教育相談部】 個に応じた指導および必要な支援の充実	・職員研修を企画・実施し、教育相談活動や特別支援教育の理解と環境調整(ユニバーサルデザイン)の推進、道徳教育の推進理解を深める。 ・各種委員会を適宜実施し、職員間の生徒状況の情報共有と対応への共通理解を図り、個に対して組織的な取り組みを行う。 ・通級による指導を実施する。	A	・教室前面に不要な掲示物を置かないフロントゼロの教室環境整備の徹底を推進した。 ・職員研修は、多様化する生徒の実態に対応出来る職員の資質向上を目的に実施できた。 ・通級による指導は生徒の実態に即した内容で実施できた。 ・支援が必要な生徒に関して、生徒に関わる職員との連携および本人、保護者と専門機関の面談など支援ができた。今後は生徒の実態に応じた進路を考えていきたい。	A	
	【教育相談部】 生徒の実態把握とその対応	・M2-DV検査や学校生活調査、リクエスト相談の実施や相談箱の活用により、生徒の悩みや実態を把握し、具体的で速やかな解決を図る。	B	・相談箱を設置しているが設置場所や相談のあり方を検討する。 ・各種検査等を実施したが、検査後は生徒と面談を行い、関係職員と情報共有しながら状況改善を図っていった。 ・ICTを活用できたが、不具合もあったので調整していく。	B	
	【教育相談部】 職員間の情報共有と連携強化	・保健室との連携や担任、関係部、職員との情報交換を密にし、支援体制の充実を図る。 ・外部機関との連携を図る。	A	・特性のある生徒については、本人や保護者と外部機関を交えた支援体制を整え対応できた。 ・3学期もスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの計画的積極的活用を継続する。	A	
【事務部】 授業料と学校納入金の情報発信と納入促進	・授業料に関する就学支援金制度や奨学金給付金制度を各家庭に周知徹底し、滞納を防ぐ。 ・長期滞納者に対して、各担任等との連携を図り奨学金制度等を紹介するなどして、早期納入を進める。	A A	・対象となる家庭への周知・連絡ができた。 ・滞納のある家庭へ催促し(丁寧な電話連絡等で納入を促す)、粘り強いやりとりを行った。	A A		
【事務部】 家庭・地域との連携	・「開かれた事務室」をモットーに、窓口・電話対応を親切・丁寧に行い、責任を持った適切な対応を行う。	A	・丁寧な対応ができた。	A	・窓口ではいつも笑顔で接していただきました。	

A: 十分達成(80%以上) B: 概ね達成(79~50%) C: 検討の余地あり(49~20%) D: 不十分(20%未満)